



2024年6月27日

たてくろジオパーク だより 第70号

発行：立山黒部ジオパーク協会 事務局

〒930-0856 富山市牛島新町5-5 タワー111ビル1階

TEL: 076-431-2089

FAX: 076-482-3204

MAIL: info@tatekuro.jp HP: https://tatekuro.jp/



https://facebook.com/tatekuro

★ 立山黒部ジオパーク 令和6年度 定時社員総会・10周年記念講演会 開催 ★

6月1日（土）一般社団法人立山黒部ジオパーク協会の定時社員総会並びにジオパーク認定10周年記念講演会をインテックビル3階スカイホールで開催しました。総会では、御来賓の藤井富山市長からご挨拶をいただきました。次に、令和5年度の事業・会計報告、並びに令和6年度の事業・予算案と役員選任議案の提案に対し、会員の皆様のご承認をいただくことができました。ありがとうございました。



定時社員総会終了後、「令和6年能登半島地震と富山県の地震」と題して、平松良浩 金沢大学理工研究域地球社会基盤学系教授にご講演をいただきました。ご講演ではまず、地震とはそもそも何なのか、そして、北陸地方の活断層と主な被害地震



について教えていただいた後、令和6年能登半島地震が発生したメカニズムを教えてくださいました。次に、富山県で過去に被害を及ぼした地震から富山県の主要な活断層帯そして、その地震の発生確率と地震や津波による被害想定を教えてくださいました。講演の中で、住宅の耐震化率が高いほど、劇的に被害が小さくなることから、その重要性を訴えられました。私たちは今まで能登半島地震を富山から見ていましたが、平松先生は、石川からと富山からの両面から見た難解な地震のメカニズムを分かりやすく丁寧に教えてくださいました。そして、ご講演の最後に、「今日地震が起きなかったということは、明日からの地震発生確率が上がったということです」とのお言葉をいただき、目から鱗が落ちる思いがいたしました。



8月のジオパーク散歩

募集中!

*参加費 300 円

第11回 [千寿ヶ原でジオパーク散歩]

〈変化に富んだ地形・地質と立山信仰を学ぶ〉

【日 時】8月24日（土）10:00～12:00（受付 9:45）

【集合場所】富山地方鉄道立山駅前

【見学場所】・立山駅前にて立山信仰と地形・地質

・藤橋にて地形・地質と立山信仰

・常願寺川にて地形・地質及び砂防と電力設備

【持 ち 物】雨具、飲み物、帽子等熱中症対策

【対 象】どなたでも（小学生以下は保護者同伴）

※往復約1時間、坂道を歩きます。

※7月11日（木）開催予定の「初夏の百間滑ジオパーク散歩」と7月13日（土）に開催予定の「ジオパーク散歩 in 称名滝」はすでに定員に達しましたので、締め切らせていただきました。たくさんのご応募ありがとうございます。また、次回以降のご応募をお待ちしております。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK



5/25 初夏の美女平 ジオパーク散歩

5月25日（土）、ジオガイドの解説のもと、美女平駅から遊歩道を約2時間かけてゆっくりと散策しました。美女平駅前で、美女杉伝説の説明を受けた後、遊歩道に向かいました。あいにくの曇り空と前日夜に降った雨の影響で、遊歩道は所々ぬかるんでいましたが、新緑のさわやかな空気を感じながら散策することができました。森の中では、鳥のさえずりが聞こえ、大きな杉の木に触れながらゆっくりと進みました。立山スギの下の方の枝が丸くなっているのは雪の重みによることや、様々な草花の名前や特徴の解説を聞くことができました。参加者の中に美女平の自然に詳しい人が何人もいて、とても高度な質問がありましたが、ジオガイドは丁寧に解説したり、理由を一緒に考えたりしました。そして、「森に入るといろいろなことを考えるので脳がとても活性化されますよ」と言われたことが印象的でした。途中、この冬の間に折れてしまった「おんぼスギ」を見て、自然の厳しさや雄大さと生命の力強さを感じる時間になりました。



6/1 ジオパーク散歩 新緑の洞杉、蛇石にあいに行こう！

6月1日（土）に魚津市で今年度4回目のジオパーク散歩を開催しました。浅間山北麓ジオパークガイドの会並びに浅間山ジオパーク推進協議会の皆様には前日に開催したガイド交流会に引き続いて、ご参加いただきました。今回のジオパーク散歩のテーマは「新緑の洞杉、蛇石に会いに行こう！」です。当日は天候にも恵まれ、集合場所の片貝の守キャンプ場から、洞杉駐車場まで車で移動しました。洞杉とは、天然のスギの古木、巨木です。名前の由来は、幹の内部が空洞になっているものが多いことからそう呼ばれるようになったと言われています。洞杉の多くは、巨大な石を抱え込むような形で生育しているのが特徴で、南又谷地区の豊かな自然環境とあわせ他に類を見ない素晴らしい景観を作り出しています。蛇石とは、白い花崗岩に貫入した黒い輝緑岩の模様が、まるで石に大蛇か龍が巻き付いているような姿になっています。蛇石周辺では眼球片麻岩を探したり、冷たい水に手を付けたりと五感で楽しめるジオパーク散歩でした。



6/5 ジオパーク散歩 in 上市大岩

6月5日（水）に上市町の大岩山日石寺で今年度5回目のジオパーク散歩を開催しました。大岩山日石寺といえば六本滝での滝行が有名ですが、元来滝行は千巖溪で行われていたものが、安全確保のため境内に建設されたという歴史があるそうです。瀧口の6基の龍頭から流れる水量は一見同じくらいに見えますが、場所によって差があるようです。この日は年に1度行われる「大岩山滝開きの火渡り行」の準備がされていました。



境内の見学の後は、千巖溪の散策も行いました。大岩川が凝灰岩の山を削りできたと言われる溪谷は、苔に覆われた神秘的な場所でした。参加者は遊歩道から大岩川のせせらぎを聞きながら、自然の情景を楽しんでいました。

6/6 ジオパーク散歩 in 称名滝

6月6日（木）、午後は滝に虹がかかることが期待できるので13:00に称名平休憩所に集合しました。ジオガイドより休憩所展示コーナーで称名滝の概要について説明を受けた後、称名滝に向かって歩きました。あいにくの曇り空で虹を見ることはできませんでしたが、ハンノキ滝にも水が流れ大迫力の称名滝を堪能しました。帰りは参加者同士が遊歩道脇の植物談義に盛り上がり、隊列が乱れがちになりました。名前が挙がったものでもオオイタドリ・ヤグルマソウ・ツルアジサイ・ミズキ・ツリバナ等、名前の由来や類似植物の説明等皆さんの知識にただただ感心しました。



6/11 称名滝ジオパーク散歩 (Walk tour to Shomyo Falls)

6月11日(火)に称名滝でジオパーク散歩(Walk tour to Shomyo Falls)を開催しました。まず集合場所である称名滝休憩所において、称名滝の成り立ちや地形的特徴について説明を受けた後、滝見台を目指して歩きました。滝見台までは約1.5キロの緩やかな上り坂が続きましたが、川上から吹く風が心地よく、称名橋付近では滝のミストでとても涼しく感じました。滝見台からは称名滝が4段で構成されている様子がよく見えました。近年、4段目に変化が生じていると言われているそうです。この日は大変天候に恵まれ、称名滝から流れる水の様子は、まさに「青雲にわく瀧青き霧へ落つ」という水原秋櫻子の句のとおりだと感じました。



ジオガイド スキルアップ研修 6/19・22

6月19日(水)に富山市科学博物館で第3回ジオガイドスキルアップ研修を行いました。立山黒部ジオパーク協会研究教育部会の金子一夫氏を講師に迎え、現地研修に先立ち「八尾・山田のジオ散歩」と題して講義いただきました。講義の内容としては、地質図の見方から始まり、八尾・山田地域の地質図や研究史についてのお話を聞かせていただきました。講義の終盤には八尾・山田地域で発見された化石の紹介もあり、この後に行われる現地研修が楽しみになりました。



22日(土)は現地研修を実施しました。八尾・山田・大沢野地域は1900年代初頭から地質学的研究が続けられ、100年以上経過した今日でも尚、新たな知見が得られる場所です。今回のねらいは、この地域に分布する八尾層群の特徴を表わす露頭をめぐり、観察の仕方、魅力、伝え方等を学び、ジオパーク散歩等を企画する際の参考にすることです。八尾町民ひろば駐車場に集合し、マイクロバスで移動しました。見学は、①山田川河床で観察、②山田中村の橋の上から観察、③高熊力キ貝化石床、野積川河床で観察、④富山市土の土川のトンネルで観察、⑤神通川第三左岸発電所、対岸の長走の山田中凝灰岩の観察、⑥東別所層の観察、⑦葛原化石産地の観察と大変盛りだくさんの内容で、特にたくさんの貝化石を見ることができて、参加者は「本当に楽しかった!」と大喜びでした。



■その他の活動より

6/13 富山大学院生が寺町テフラで調査活動

6月13日(木)富山大学大学院 理学研究科 地球科学専攻の大学院生4名と安江健一准教授、立石良准教授、立山黒部ジオパーク協会研究教育部会の金子一夫氏が富山市の寺町テフラで実習を行いました。この実習の課題は、現在立山黒部ジオパーク協会が新しいジオサイトにしようと準備を進めている寺町テフラ(テフラは、火山噴出物の堆積物の総称)を一般の人々に知ってもらうための方策を企画・実行することです。現地は、富山市中心部近郊でありながら、竹藪が生い茂る急斜面のため、安全に観察できるようとのようにして工夫するかが大きな課題です。実習では、はじめに約30分間、自由に露頭を観察しました。観察後、集合して感想を述べ合いました。安全を考慮した上で、この露頭を一般の人々に知ってもらう方法にはどんなものがあるかを話し合い、解説看板、解説パネル、動画、VRなどの意見が出ました。次に、それを実現するために必要な材料、要素は何かを話し合った後、これらを手に入れることを念頭に、もう一度観察を実施しました。大学院生の若くて柔軟な頭脳と実行力によって、新ジオサイトがより魅力的なサイトとしてたくさんの人々に親しまれることを期待しています。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK



上市町小学 6 年生ふるさと学習 6/18 ~ 20

今年度も上市町ふるさと学習（6 年生）に、講師として立山黒部ジオパーク協会に参加の依頼をしていただきました。今年度は、6 月 18 ~ 20 日に行いました。はじめに上市町立相ノ木小学校の体育館で「上市町の地層と化石」という内容で 2 学期教材「大地のつくりと変化」を中心とした学習を専門員が進め、ペットボトルを使ったミニ地層づくりや化石の観察等の体験的な活動のサポートをジオガイドが行いました。その後は稲村露頭へ行き、地層の観察です。児童たちは、ダイナミックな稲村の露頭を観察して、地層は広がりつながっていることをしっかりとらえていたようです。また、スランプ構造（地層が折りたたまれた状態）から、自然がもつエネルギーの大きさを感じ取っていたようです。化石の観察の際には、「この二枚貝の化石は、人間が食べたあとの貝殻ですか？それとも生きていたままの貝殻ですか？」など、積極的かつ、よく考えた質問をする児童がいて、ジオガイドをおどろかせていました。



たてくろ 見どころ紹介コーナー

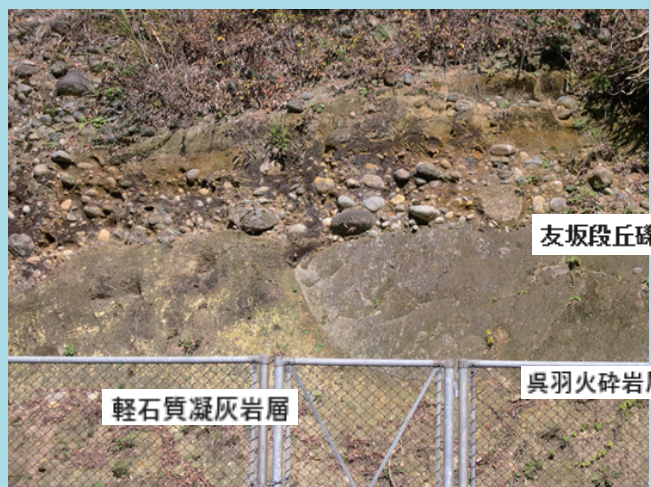
友坂の二重不整合（富山平野エリア）

ー 隆起と沈降を繰り返す富山の大地の変化を知る
富山県指定天然記念物ー

不整合とは地層が隆起し風化・侵食作用を受けた後に沈降、その侵食面に新しい地層が堆積した状態の地層の関係をいいます。従って不整合で接した地層の形成年代には、かなりの年代差があります。呉羽山丘陵の南側に位置する友坂の露頭の一番下の地層は、軽石質凝灰岩層です。今から約 400 万年前の火山活動で噴出した軽石が大量に含まれています。この地層をえぐり込んで右側の灰色で、丸くなった礫を含む呉羽火砕岩層の砂が不整合で堆積しています。これは約 10 ~ 12 万年前、岐阜県の焼岳が大噴火を起こした時に発生した土石流が神通川を伝って富山平野に流れ込んだ堆積物と考えられています。さらにこの上に、昔の神通川がつくった、火砕岩層より若い友坂段丘礫層がほぼ水平に堆積しています。このように友坂の露頭は、2 つの不整合が見られる珍しい露頭で、加えて呉羽丘陵の成り立ちや神通川の旧流路など富山県の大地の歴史を考える上でも大変貴重であることから、富山県の天然記念物に指定されています。

友坂の二重不整合は立山黒部ジオパークのジオサイトに登録されています。

<https://tatekuro.jp/enjoy/pointDetail.php?id=42>



<編集後記> 私は、上市町のふるさと学習に同行させていただき、はじめて下田金山跡を見学（サイトモニタリング）をさせていただきました。江戸時代にたくさんの金・銀・銅などを算出した鉱山跡を文化遺産として大切に保存されている「下田ふるさと会」のみなさんのご苦勞に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

立山黒部ジオパーク協会では、富山県東部地域の魅力を世界へ発信するために、民間活力を活かしたジオパーク活動を行っています。私たちの活動を支援してくださる方、手助けをして下さる方をお待ちしています。ジオパークの活動に興味のある方は、立山黒部ジオパーク協会（076-431-2089）までお問い合わせください。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK

